おがまち 日奈久ニュース

山本一樹住民自治会長・校区長からのメッセージ
互いに声を掛け合いこの難局を乗り越えよう



日奈久校区
住民自治会長
・校区長
山本一樹氏

このたび発生いたしました「令和８年熊本地震」におきまして、被災された皆様、また避難生活を余儀なくされている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

当校区では皆様の身の安全確保を第一とし、行政や関係機関と密に連携しながら、次の具体的な体勢で復旧・支援活動を進めております。

まず、市行政・日奈久出張所とは常に連絡を密にし、校区内の被災状況や避難所の開設・運営状況をリアルタイムで共有しております。これにより、必要な支援物資の要請や公的支援情報の迅速な獲得に努めております。

また、各組織と連携し、校区内の巡回や危険箇所の点検をしております。なお、高齢者や障がいをお持ちの方など、配慮が必要な方々の安全確保につきましては、民生委員・児童委員や社会福祉協議会の方に連絡をしていただければ助かります。

このような未曾有の困難におきましても、私たちが互いに声を掛け合い、手を取り合うことが復興への大きな力となります。お隣近所で困っている方や支援が行き届いていない状況にお気づきの際は、遠慮なく校区役員や自治会までご相談ください。

今回の大地震において、初動で各組織との連携がなかなかうまく取れず反省しているところですが、また何かしら大きな災害時には組織が働くよう考えたいと思います。地域の皆様と共にこの難局を乗り越えて参る所存です。

皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



ゴリけんから 義援金届く

８月26日（水）ばんぺい湯2階で、ゴリけんから湯の里日奈久振興会に令和８年熊本地震の被害に対して、義援金の贈呈がありました。ゴリけんから日奈久復興への思い、「日奈久がんばれ」の声と共に、番組ファンからの募金があったこと、芸能人仲間から日奈久に対する熱い思いを込めて、義援金をいただいた話がありました。

ちくワンが代表で目録をいただき、その後、感謝状をちくワンからゴリけんへ贈りました。最後に「がんばるぞ」の掛け声の後、日奈久ゴーのポーズで記念撮影を行いました。

贈呈式が終わった後、ゴリけんは被害の様子を見て回り、住民の説明をうなずきながら聞きました。



ゴリけんから目録を
受け取るちくワン

令和８年１０月号
（第２０６号）
発行者
日奈久住民自治会

日奈久の人口
（８月末現在）

男	974人
女	1,173人
計	2,147人
（前月比-13人）	
（2009年末3,444人）	

素早い助け合いの輪

７月30日には、麦島の上野さんご夫妻（アガダーチャ経営）が、軽トラックに水タンクを載せて高齢者を中心に50人くらいの人に水の提供をしました。日奈久地区で４日間、宮原町で１日、千丁町で１日給水活動をしました。日奈久コミセンで炊き出しを１日実施しました。

また、８月７日・８日には、リッツモンドの山田さんが、ゆめ倉庫で１日目は焼きそば、２日目はカレーの炊き出しをしました。



給水活動をする
上野さん夫妻

いきいき市場の中田さんは、避難所に昼食を届けています。他にもいち早く水や支援物資を各家庭に届けた人もおり、大変喜ばれました。市政協力委員は、町内の様子を確認すると共に、民生委員・児童委員と連携し支援物資を各家庭に配布しました。

「ありがとう」が行き交うまち　日奈久
身近な人に「ありがとう」 愛する日奈久に「ありがとう」 訪れる人に「ありがとう」



久山喜昭様（横浜市）より 義援金等が届きました

横浜市在住の久山喜昭様から日奈久住民自治会へ義援金と新刊の書籍「渥美清　孤独を愛した男の全生涯」が送られてきました。その他にも、避難所にいる就学前の子供たちにポストカードが同封されていました。

久山さんは、何度もご紹介していますが、若い頃に八代に仕事に来られて、すっかり日奈久が好きになられたそうです。それから交流が続き、毎回おがまち日奈久ニュースも読んで、コメントをいただいています。これまでもお見舞いや寄付、珍しい切手や書籍をいただいております。

なお、９月号に掲載した義援金を頂いたお二人は、池杉愛子（旧姓岡下）様（中西町出身、横浜市在住）と口羽三穂子（旧姓北園）様（新田町出身、山口県在住）でした。

炊き出しに奮闘 下西町から発信

震災後、買い物ができずに困っておられる人が多数でした。そこで、どうにかならないか、自分にできることはないかと考えた今井美根子さん（下西町）は、馬越町の橋本信子さんに呼びかけ、炊き出しをすることにしました。下西町や中西町の人にも呼びかけ、田浦町の方を含め８人で約１２０食の炊き出しを行っています。



材料については、太極拳の江藤先生の紹介で麦島の松本さんが米や野菜を届けていただきました。また、宮城支援チームと熊本支援チームからも肉や野菜などを届けてもらいました。これまで、９月２日、５日、９日、11日と実施してきました。今後は、支援チームから調理の手伝いに２人来られます。炊き出しを各家庭に届け、大変喜ばれています。

また、その日は、炊き出しとスーパーが休業中で買い物に困っている現状について、ＮＨＫの取材もありました。



炊き出しの準備を取材
するＮＨＫのスタッフ

支援物資を届けて 広がる共助の輪

大坪町　下村のり子

このたびの震災に際し、被災された皆様とご家族の方々に深くお見舞い申し上げます。

日奈久唯一のスーパー（マルショク）が被災し、買い物に行けない方々の支援をということで、どのように行動して良いか分からないとき、太極拳の江藤先生より「麦島教室の松本さんが、一生懸命ボランティアをされているから電話してみて」とラインが入ってきました。

早速連絡したところ、大坪町公民館に車いっぱいの支援物資を届けていただきました。私と橋本都さんは、松本さんの素早い行動に驚いたものでした。着くやいなや仕分けして車のない買い物弱者の方々へ配達するよう指示され、支援の仕方を伝授されました。

翌日には、「総合体育館に10時に来て」と連絡がありました。そこで、下西町の今井美根子さんも誘って３人で行きました。【日奈久ボランティア配送】と書いた名札を用意され、初めて支援物資センターへ。

全国からたくさんの物資を目にしたときは、感動でした。受付して必要物資を記入し、九州各県から来られているクロネコヤマトのスタッフさんたちが、手際よく集め車に詰め込んでくださいました。また、夕方には炊き出しのカレーライスと野菜まで手配していただき、松本さんには頭が下がるばかりです。３回目は、３人だけで郡築の松木産業の倉庫に物資を取りに行きました。

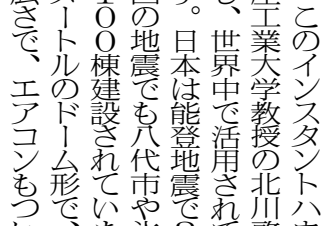
９月３日（木）には、大坪町でも炊き出しをして配りました。東町の穂多田さんや塩南町の吉田さんは、コミセンから支援物資を配達されているそうです。

ご存じですか？ 在宅避難者支援カード

八代市危機管理課は、在宅避難者の実数や実態を把握して必要な支援を行うために、「在宅避難者支援カード」を発行することになりました。

日奈久コミセンで申請書を記入し、パスカードを受けて、それを提示して支援物資を受け取ることになります。申請する場合やパスカードを持って行って支援物資を受け取る場合、市政協力員や民生委員児童委員、婦人会会員に代理で頼むことができます。

ただし、このカードがないと支援物資や炊き出しは受け取れません。（炊き出しは数量に限りあり）



インスタントハウス出現

９月14日（月）塩南町の山口直子さんの敷地に、インスタントハウスができました。山口さんは今回の地震で被災しました。ペットもいるために避難所にも行けず困っていたところ、八代市のホームページでインスタントハウスのことを知り、申し込んだそうです。（８月17日で締め切られました）

このインスタントハウスは、名古屋工業大学教授の北川啓介氏が発明し、世界中で活用されているそうです。日本は能登地震で３００棟、今回の地震でも八代市や氷川町等で、１００棟建設されています。直径５メートルのドーム形で、12～13畳の広さで、エアコンもついています。

これは世界中の皆さんの寄付でまかなわれており、一棟につき50万円でできるそうです。寄付は、「インスタントハウス基金」で検索するとできます。皆様のご協力をお願いします。

山口さんは、「これでペットと一緒に安心して過ごすことができます」と笑顔で話しました。



インスタントハウスと
発明者の北川教授

10月の行事から

12日（月）スポーツの日
15日（木）日奈久阿蘇神社例大祭（神事のみ）

〈会　議　等〉
13日（火）市政協力員例会
15日（木）運営委員会
19日（月）広報部会

「落語会」開催 笑いで元気に

◆日時　９月29日（火）午後２時頃
◆会場　日奈久ゆめ倉庫
◆噺家　桂やっこ　さん

善立寺主催で笑いをお届けします。入場無料です。多数のご来場を！

福祉人権健康部会より

敬老会のお便りとお祝いの品は、10月９日（金）にゆめ倉庫に集まって仕分けをし、10月12日（月）までにお届けいたします。

スポーツ協会からのお知らせ

・10月11日（日）に予定されていた校区民体育祭は中止になりました。
・11月に計画されているソフトバレー大会、１月１日の駅伝競走大会、２月に計画されている卓球大会は、これからの状況を見ながら大会の延期、中止、実施を決定していくことになりました。

各町内でそれぞれの活動をされているかと思いますが、まだまだ残暑が続くと思いますので、くれぐれもお体ご自愛ください。

がんばろう!!ひなぐ!!

毎年ありがとうございます
ＪＲＡ寄付物品目録贈呈式

８月28日（金）ゆめ倉庫において新開町・塩南町・浜町・中町・上西町の５町内と住民自治会に対する寄付物品（30万円相当）の目録贈呈式が行われました。

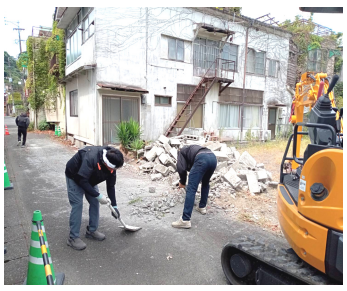
ＪＲＡからウインズ八代の高橋周平所長と星留華副所長が来訪され、山本一樹住民自治会会長に目録が手渡されました。また、ＪＲＡからは、４つの祭りやイベントの開催への寄付金（10万円）をいただいています。毎年本当にありがとうございます。


高橋所長（左）から目録を受け取る山本会長

各種支援に感謝
様々なボランティアが日奈久を応援しています

７月28日の震災後、多くのボランティアが日奈久を訪れています。

特に震災後の早い時期に岡山から４人が駆けつけてくれました。４人は、日奈久で仕事をした縁があって、いち早く重機を積んで車３台で来たそうです。一週間の滞在期間に、塀が倒れて道が通れなくなっていた所や瓦で川が埋まってしまった所など10カ所を復旧してくれました。


がれきを撤去してくれるメンバー

９月２日（水）には、日奈久コミセンで合志市の「命のスーププロジェクト」による炊き出しが行われました。４人の女性メンバーは、ネットで調べて日奈久のコミセンでの炊き出しを決めたそうです。メンバーの一人は、「10年前の震災で自分も避難所で過ごし、温かいスープやのどごしの良いものが欲しかったので、今回は炊き込みご飯と野菜のスープ、ぶっかけうどんにしました」と笑顔で話しました。


炊き出しの準備をするメンバー

また、９月６日（日）には日奈久コミセン前で、人吉中央ロータリークラブと台北城東ロータリークラブ共催で炊き出しが行われていました。

夏野菜カレーと焼きそば、果物（梨）が、避難所の皆さんや地域住民に配られました。そのスタッフの中には、香川県から駆けつけた大学生も含まれており、笑顔で食事を届ける姿が印象的でした。


炊き出しを受け取る人々

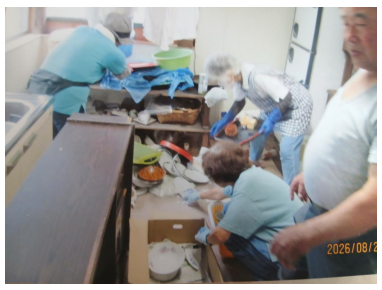
もらった料理を食べる避難所の皆さんは「美味しい。ありがたいです」と笑顔で話しました。ボランティアの皆さんは、笑顔で「頑張ってください」との声と共に活動し、元気も届けています。

なお、行政からの支援も継続して行われています。コミセンでは、鹿児島からの支援が行われていました。また、日赤からは医療関係のスタッフが、避難所の皆さんの健康について聞き取りを行っていました。

馬越町

地震で馬越町公民館の内部設備が利用できない状態となってしまいました。そこで、８月20日（木）協力者７人が集まりました。雑巾、バケツ、掃除機、廃棄物用箱等用意して、片付けと掃除を行いました。

茶棚や茶碗類や長机、テレビ等々転倒して散乱していたので、器具類を元の位置に戻しました。再び皆さんの寄り合う場所になって、参加した皆さんはほっとされました。


散乱したものを片付ける参加者

竹之内町
力を合わせて元の姿に
「お互い様の日」実施

７月30日（木）、31日（金）に８人が地震被害に対応しました。

独居高齢者２世帯の倒れた給湯器を元に戻しました。２日目には、倒れた塀がカーブミラーを倒して道路を塞いでしまったとのことで、早速協力者が道具を持ち寄り、カーブミラーを切断しました。岡山より来られたボランティアにユンボでブロック層等の重量物を撤去してもらい、通行できるようになりました。

また、８月３・４・５日の３日間は、屋根瓦が破損した高齢者の３世帯を支援しました。屋根に登ってシートを張ったり、土のう袋で固定したりしました。

そのほかに倒れた家具の移動やテレビの修理、破損家具の片付け等５日間に渡り延べ21人の協力を得て、復旧作業に汗を流しました。被害に遭われた皆さんには、安全に過ごせるようになったと大変喜ばれました。


片付けられたカーブミラーと倒れた塀

屋根に登って作業

日奈久校区のふれあい委員の皆様には、独居老人の安否確認と避難所への避難、その他支援物資の配布など、大変お疲れ様でした。

津森小学校遭難の碑
芳名板が破損

今回の熊本地震で、津森小学校遭難の碑も被災しました。後方に設置してあった芳名板が落下し、割れてしまっていました。建設に際し寄付を頂いた方々のお名前を刻んだこの芳名板は、寄付の追加があったときに取り外して、名前を刻むためにしっかり止めてはなかったのです。そのため今回の強い揺れで落下したものと思われます。そこで、写真に撮って、当時工事を担当された天草の早坂石材企画に連絡し、見積もりをしてもらいました。その上で、９月６日（日）に現地に来てもらい、状況を見てもらいました。

もし次に同じような大きな地震が来ても大丈夫なように、しっかり固定してもらうことにしました。また、予算の関係で、文字や石の素材を変更することで、再度見積もりをしてもらいました。それを受けて住民自治会運営委員会で検討し、修理をすることになりました。


割れてしまった芳名板


内容を再度確認する早坂氏（左から2人目）

ご注意を！

※震災後、各家庭を回り、様々な勧誘をしている人がいるとの報告が多数聞かれます。ご注意ください。

山頭火のタペストリー
お目見え

日奈久ゆめ倉庫のステージに掲げられたのは、山頭火が日奈久温泉を書いた行乞記の一節が書かれたタペストリーです。縦横共に２メートルほどの大きさの物です。日奈久のイベントに積極的に関わっている松永登さんが、私費で作成した物です。「九月は日奈久で山頭火」が、規模を縮小しながらも開催されています。盛り上げに一役買ってくれることでしょう。



下げられたタペストリー

津森小学校遭難の碑広場
清掃のお知らせ

◆期日　10月28日（水）午前７時～

生活環境部会

77年前の１９４９年（昭和24年）、11月５日に24人の尊い命が、波間に消えました。

命日には、お参りに来られる人もいます。その前にきれいにしてお迎えしましょう。皆様のご協力をお願いいたします。

（小雨決行）



「令和８年　熊本地震」を教訓に
震災で困ったことや備えの必要性を考えよう

２０１６年の熊本地震から10年。まさかこんなに短い期間に、前回以上の激しい地震が起こるとは、専門家も想定外と驚いています。10年前の地震の教訓は、今回どのように活かされたのでしょうか。

震災が起こった今だからこそ、今後に備えなければならない課題も見えてきています。

「今回の地震でどんなことが困りましたか？」

○水が出なかったことが一番困った。特にトイレが流せないので、水を確保するのに苦労した。

○情報を得るのに苦労した。毎朝給水所の放送があっていても、他の町内の放送と重なって聞きづらかった。また、ＳＮＳで情報を発信されても高齢者には伝わりにくかった。特に炊き出しなどについては、ほとんど伝わらなかった。

○支援物資を配布するときに、その家に何人住んでおられるのか、どんなことに困っておられるのかなどの情報が分からず困った。

○家族に障がいを持っている者がおり、トイレの利用や休む場が十分確保できなかった。

○散乱した食器などの片付けが大変だった。

○給食が少なくて寂しかった。等がありました。

「もし同じような災害が起きた場合に備えておきたいことはなんですか？」

○避難バッグなど必要な物を玄関に置いておく。特に貴重品や日常必要な薬など。

○いろんな情報を得るためには、二見や坂本などのように各家庭に有線放送があれば、避難の情報や炊き出しなどの情報も得やすくなると思う。住民に情報が等しく届くことになると思う。

○各家庭の状況が分からないので、その情報をそれぞれの町内で集約しておくことで孤立化が防げ、適切な支援が届くようになると思う。

○家具などが倒れないように固定しておきたい。等

※様々な意見が聞かれ、代表的なものを記載しましたが、他にもいろいろなご意見があると思います。各町内の広報委員またはコミセンへ是非お聞かせください。

広　告　欄